

企業を繁栄に導く事業継承の秘訣

蘇れ日本人の会

徳育経営コンサルタント

藤原 美津子

今年の二月に戸田蔵で百名から集まった講演会で、「日本は、どう事業継承してきたか」をお話させていただきました。

一時間くらいでしたが、かなりの方が身を乗り出して真剣に聴いてくださり、そのくらい、事業継承というのはお仕事をしておられる方にとって、大事なテーマなのだとお話をさせて頂いた私の方が、大変に胸に響く思いが致しました。

実は「託されたい次世代」

初代の方と、次世代の方が三対二くらいの参加でしたが、意外にも次世代の方のほうが事業継承に興味を持っていました。私は前でお話をさせて頂き、初代よりも、次世代の方々が身を乗り出して聴いておられる印象が強かったです。

次世代は、逆に親からはっきり、「俺の後をきちんと継いでくれ。頼むぞ」と言って欲しいのだと、息子はまだ自分が至らないとしても、親に期待されたり、はっきりと頼むと託されたいのだと強く感じました。

「事業継承の秘訣」という小冊子の中で、社長交代式のことを書かせて頂いたのですが、なんと、事業の交代式の第一号が私自身となってしまいました。

前会長である藤原と私は二十年以上ずっと並走して、同じ仕事をして参りました。一緒に原稿を書き、行事をし、講演会の時も、講演構成なども組み立てさせて頂き、現在もヨタヨタしながらもさせて頂いています。だけど、「貴女が継ぐことだけではなくて、その次に誰を育てるかということも、もっと真剣に考えていなさい。」と言ってもらっていたら、藤原の話していたことに対する受け止め方が、もっともっと真剣だったのではないかと思います。「次に引き継ぐのだ」とはっきりそう言われた上で自覚を持って、

毎日それぞれの意識で過ごしていたら、もっと違っていたのかも知れない。もっともっと、色々なことに気がついていたと思うのです。

教える立場になって、引き継がせる立場になってこそ、はじめて、分かることということが出てくるはずです。

出来得ることであれば、引き継ぐ立場の方は、自分の次は誰にさせるということも今から意識する。オーナー経営者であれば、次までに20年ぐらいの期間があるかも知れない。その20年の中の最初の10年で後継者を探しだして、次の10年で並走して走るぐらいの気持ちでいる方が良いのではないかなと思います。

老舗企業の後継者育成

老舗の最たるところで、例えば、歌舞伎の世界とか、華道・茶道の世界では、何代も続いてきていますが、歌舞伎の世界は驚くことに三歳で初舞台です。そして、赤ちゃんの時に一番最初に与えられるおもちゃというのが、歌舞伎の舞台の道具や装束などです。周りは必死になって、子供にそっちの方に向かせるようにして、三歳の小さい子供に「見事でした」と言いながら、舞台を踏ませるそうです。このような経験は小さければ、小さければ、良いと思います。もし、お孫さんがいらしたら、是非そうしてさし上げてください。

ゴルフの石川遼君も、15歳でプロの世界で優勝しましたが、てっきり、私はゴルフは社会人になってからやるものだと思っていました。しかし、それでは一流のゴルファーに絶対になれない。タイガー・ウッズも生後九ヶ月からはじめたそうですね。そのくらい、普通だったらやらない時期から、ゴルフのクラブを握ったりしていたからこそ、人より抜きん出たことができたのだと思います。

ある優秀な三代目社長は、子供の頃からお父さんとおじいさんに連れられて、休みの日の工場の見回りをさせられたそうです。小学生の頃から、「お前がこの会社を継ぐんだぞ、お父さんの跡はお前が継ぐんだからな。」と育てられましたと。だから、その三代目の方は有能ですし、力も持っています。でも、その社長自身は、四代目のお子さんに、同じことをやっていたらなかったそうです。

何故なら「子供の時に、夜暗い中、懐中電灯を付けて回らなくてはいけないのが辛かった。でも、子供に辛い思いをさせたくない。」との理由からでした。

「だけど、それをやっていたら、今のあなたのように優秀な社長にはならないのですか。辛いと言おうと、何であろうと、鉄は熱い内に打てというし、小さい時ほど、教えは染み付いていくはずではないでしょうか？」と言われて、「今度の日曜日に思い切ってやらせてみます。」と答えたそうです。

伊勢に名店と言われている赤福では、お婆さんは孫を叱る時に、お墓まで連れて行ったそうですね。お墓の前で正座をさせて、「ご先祖様の前で聞きなさい。お前はそれで良いのか」と叱りつけたそうです。だから、今の赤福があると伺ったことがあります。小さいお子さんを叱るときに、単に自分が叱るというだけじゃなくて、お墓であるとか、家の仏壇であるとか、そういったご先祖様の前で叱るということも、代々続いていくうえで大切だという気が致します。

家筋の継承

事業継承の前に、家筋の継承ということも大切になってきます。

老舗の教えの中には、その家のしきたりであるとか、家に神棚があれば神棚、仏壇やお墓をどうやって引き継いでいくのかということ、小さい時からしつけていくということが、おそらくあるのだと思います。

例えば、お盆の時には迎え火・送り火を焚くときに、「お前が長男だから迎え火の時は、必ずこの時間には家に戻るように」と伝えておく。

お彼岸の時には孫も連れてお墓参りに行く。お正月の初詣だけでなく、一日・十五日にも近くの神社に月参りをして、「この地元を守ってくださる神社なんだよ。」と子供に教えてさしあげたら良いですね。

実は、「跡を引き継ぐ」ということで一番悩みが多いのは、なんと神棚のこと。仕事のことだったら、堂々と社員に聞けるけれども、「神棚のことも知らないのか」とバカにされそうで、聞くに聞けないそうです。

神棚についての基本でしたら「神棚の祀り方、神社参拝の仕方、お盆やお彼岸の時のお参りの仕方」など、しきたりの本に書いてありますので、良かったらご参考ください。

事業継承の前に、家筋としてご先祖様のことを引き継いでいくことを土台とし、その上での事業継承であれば盤石なものになっていくのではないかという気が致します。

「東大出の優秀なエリート一家」と言われているようなお家であっても、おじいさんがお亡くなりになられた時、お孫さんは同じ家に住んでいるにもかかわらず、お通夜だけで、告別式には出てこないということがありました。「離れて住んでいる甥や姪でも、新幹線に乗って遙々来るというのに、同じ家に住んでいる孫が葬儀に出ないのですか？」と聞くと、「通夜に出ましたから。」と言うのです。こういう状態では、「日本の心」は引き継いでいけないと思います。事業継承も大事ですが、家系の継承もそれぞれのお家で仕込んでいくべきことだと思いますし、日本人として大事にしていきたいと思っております。

社長交代式

一般的には結婚を「人生の門出」と申しますね。

結婚式には、結婚式と披露宴がございますが、社長の交代式も法人としての新たな旅立ちになりますので、できれば、人の結婚式と同じく、或いはそれ以上の心配りで臨まれたら良いと思います。例えば、事前に日時を決めて現社長と新社長が揃って神社に向き、幹部の社員を全員呼び集めて、その前で儀式なり、宣言をされたら良いと思います。

社長交代儀式の時は、基本的には産土の神社に行かれるといいのです。

その地域に根ざして貢献をする会社は、産土の神社に参拝します。

企業の規模によりますが、県下に営業所がいくつもあるような会社は「地域の一宮」に参拝されると良いのではないかと思います。

更に範囲が大きくなって、国家の運営に関わるときには、総理大臣や文部大臣の新任報告祭というものがあります。

本日の紹介者でいらっしゃる、北沢八幡神社の矢島宮司様から、貴重な祝詞のコピーを頂きまして、その中に伊勢神宮で執り行われた総理大臣新任報告祭というのがございました。

鳩山一郎氏の新任報告祭の祝詞。岸前総理が引退する時の退任報告の祝詞…その時は、元農林大臣の福田赳夫氏を伴って、儀式に臨んでおられたという記録まで残っていています。文部大臣が新任された時も、伊勢神宮に行かれて報告していらっしゃいます。

事前に、少なくとも十日とか二週間前から、「こういう交代式をしたいので是非とも宜しく願います。」と、きちんと神社に申し込みをされ、できれば、神主様の祝詞の後に、「新任の社長の誓いの言葉」も加えられたらいいかなと思うのです。

こういった「けじめ」というのがものすごく大切だと思います。

真摯に行った時、「その瞬間にも新しい社長としての力を神様から授けていただけると申しても、恐らく過言ではないと思います。

新社長になる方は、なるべく予め、誓いの言葉を用意してください。

例として、「私は〇〇は、本日、只今より株式会社〇〇の代表取締役役に就任致します。社内を統率し、社業に邁進し、地元の繁栄に貢献をすることをここに誓います」と、神様の前でお誓いになられたら良いと思います。

神様への誓いだけでなく、自分自身に対する誓いになると思いますし、実際にされた方は、「自分の腹から力が湧くように感じました。」とおっしゃられました。

今までだったら、古参の社員や自分よりも年上の社員に言うに言えなかったことも、しかるべき時にピシッと叱れるように変わっていかれたそうです。

誓いの言葉で言うてはいけない2つの禁句

誓いの言葉の中に二つほど、大きな禁句がございます

大抵の方がうっかりするといってしまう言葉

「社長としての重い役目を担い」

「重い役目」と神様の前で言ってしまうと、本当に重い役目になってしまうのです。重いか軽いかは本人の感じ方です。「重い」と言ってしまうと、本人にとって、大変重い日々になると思います。

どんなに大きな役目であったとしても、本人が重いと感じないで、むしろ軽やかに前に進んでいくためにも、「社長としての大きな責務を果たし」と誓うのであれば良いと思います。

もう一つは

「いかなる困難にも耐え」

人が感じている「いかなる困難」というレベルと神様が思っておられる「いかなる困難」はレベルが違い過ぎるのです。神様の前で誓うということは、「こんなはずじゃなかった！」と悲鳴をあげるくらいの大変さが襲ってくる危険性があります。「いかなる困難にも耐えると申したであろう」と神様から言われたら困りますよね。

「いかなる困難にも耐え」という言葉は、自分自身の中の心の中の誓いだけに留めて、神前の誓いでは仰らないでください。

誓った以上、順風満帆に進んで行きたいわけですから、この二つは絶対に仰らないように、誓いの言葉の中でもお気をつけていただけたらと思います。

社長交代式の日取り

社長交代式はどんな日を選んだら宜しいでしょうか

法的なこととは別に、神前で行ったらその日が社長就任の日になるのです。対外的な就任の日は違うかも知れませんが、実際に社長としての力をもらうのは、神前で誓ったその日と思って頂いて良いのです。ですから、なるべき良い日を選んで下さい。

安吉日という言葉がございますが、日本には昔から大変出発に相応しい数字があります。外国ではラッキーセブンと申し上げますが、日本の場合は八の日。何故かと言うと、漢字でいうと八は末広がりを表すのです。

末広がりを表す開けの日です。数字で書くと8は、横に書いたら∞無限大です。企業が末永く発展、繁栄できますようにと願いを込めてするには最適な日です。社長から新社長へ引き継ぐには大変に相応しい日と言えます。

十という数字は神様の数字なので、十日も良いです。十と八を組み合わせると、十八。神開きの日となるのですね。

その人の中にある大きな力が開いていく、社長としての力が開いていく日にもなりますし、会社としての大いなる開けの日となりますので、十八日…

二十八日は二重の開けの日となりますので、十八日でも二十八日でも良いと思います。

では、八日は開けの日だと言われて、でも仏滅に当たった場合…押し切ったところで、「仏滅に社長交代をする変わった人」と思われてしまうかもしれません。

ですから、日本に古来からある、大安吉日などの良い日と避けた方が良い日と、今お伝えした良い日を照らし合わせて、選んでいただけたらと思います。

社長交代式の後の中行事

社長の年頭の挨拶は、当然されるべきだと思います。

一般的に儀礼的な社長の年頭の挨拶と思いがちですが、日本では古来から“念と言霊”という信仰があります。

初出勤の日には、社長年頭の挨拶として社員に向けて、「今年はこの年にするぞ。こういうことを成し遂げるぞ。」と、気迫を込め、簡潔な言葉で挨拶されたら良いと思います。

新年の神社参拝。これも産土の神社と、できることなら伊勢神宮にいかれたら良いと思います。

「新たに社長就任となりました、ご報告申し上げます。」そして、できれば「この日本全国にも自分の会社の規模が広がっていきますように宜しくお願いします。」とご挨拶されると良いでしょう。

「社長として、日本人としての根っこをきちっと持って進んで参ります。」ということでも良いと思います。

伊勢神宮は「商売が儲かりますように」とお願いをするところではなくて、「日本人の魂を改めて確認しに行く場、お合わせに行く場」と思っていたら良いのではないかと思います。

鏡開き

鏡開きは一般には一月十一日と言われていますが、実は二十一日が良いのです。

二十一日に行う理由は小冊子書いてあります。実際に私自身も、前会長である藤原が、体調を崩している間に、この鏡開きを代行してさせて頂きました。腹に力に入った…覚悟が決まったというか、そういう実際体験がございます。是非ともしていただけたらと思います。

鏡餅を求めるのは十二月の頃ですが、「鏡餅をもとめる時の注意点」もその中に書かせて頂いております。

この餅だけは買わないでくださいねというのも入ってますから、買う時で結構ですのでご覧いただければと思います。